TECUM 研究機関誌『数理教育のロゴスとプラクシス』投稿規程

2020/1/11 理事会決定
2021/6/12 理事会改訂
2022/6/11 理事会改訂

投稿原稿の枠＝投稿の種類

原則として，一般会員はだれでも研究機関誌『数理教育のロゴスとプラクシス』に投稿できる．しかし次の《投稿枠》と，次節の《主題》を明確に意識する必要がある．

1. 数学教育の改善を視野においた《査読つき論文，論考，随想》
2. 数学教育の改善を視野においた《非査読の実践報告，随想，意見》
3. その他の機関誌委員長の要請または企画に応じた《特別寄稿》,《連載論考》,《企画記事》

論文，論考，随想の違いは，学理的な論証性，主題の専門性，視点の斬新さのどこに力点をおくかの違いであり，論文を分類する枠ではない．引用の正確さは論考の緻密さと同様期待される最小要件である．引用，参考文献の掲載方法については，最後の節にまとめる．

投稿原稿の主題

数学教育の論文は，その独創性や論拠を明確にしなければならないが，説得力がある以上に重要なことは，主張が主張として有益＝刺激的で面白いことである．

そのために，投稿者は，論文の基調となる主題（論述の目的，目標）がどこにあるかを明確にしなければならない．数学教育の論文の柱となり得る主題は

- 数学教育の近未来の充実に向けての学習項目の内容や教育方法についての改善案（あるいは採用案／廃止案）
- 数学教育の近未来の充実に向けての授業や教室の運営についての改革案
- 数学教育の過去と現状についての報告，分析，糾弾あるいは賛美（郷愁は断固除く！）
- 数学教育の未来の改善についての抜本的に新しい視点や具体的方法の提案
- 数学教育のあるトピックあるいは研究テーマについての報告，注意喚起，提案
- 数学教育についての新しい手法やその哲学についての分析，評価，提案
- 数学教育の行政，国内外の新潮流についての紹介，分析，評価

- （幼稚園／保育園,）小学校，中学校，高等学校，大学それぞれにおける数学教育の諸問題の分析，解消に向かっての提案
- 小学校，中学校，高等学校，大学の間の数学教育の連携の，現実的な／可能的な諸問題
- その他（以上の範疇に属さないが，数学教育を考える上で重要な論点）

等である。

1　査読つき論文，論考，随想

機関誌『数理教育のロゴスとプラクシス』への掲載の可否を行う査読作業は，前々節の 1 項

数学教育の改善を視野においた論文，論考，随想

の《投稿枠》に提出された論文に対してのみ行う．ページ数については，査読者の負担も考え,『一論文 A4 20 ページ以内』を原則とする．共著の関係や，貴重な必須資料などからこの原則が守れないときは,「別添資料は電子配布」などの形式を含め，機関誌委員長の裁定を尊重する．

論文は，査読に要する時間を考慮して十分早く機関誌委員長に提出する必要がある．

査読は論文ごとに行われ，機関誌委員長が，理事長と相談の上で査読委員長の指名含め査読委員会を組織し，査読作業を期限附で依頼する．査読委員会の構成員の氏名は，査読委員長を除き，論文が掲載された後も非公開とする．

査読委員会は「採録／条件付き採録[1]／不採録」のいずれに該当するかを判断し，その簡単な理由を含めた査読報告書を作成する．査読報告書は，査読委員長を介して機関誌委員長に提出される．機関誌委員長はそれを尊重して機関誌への掲載を判断する．

「採録」となった査読つき論文の著者には，研究会での発表の時間も 30 〜 60 分の範囲で割り当てられる．

2　非査読の実践報告，随想，意見

悪意をもって，他者の権利を侵害，名誉を毀損する意図をもったものでない限り，数学教育に関するいかなる投稿も受け付ける[2]．とりわけ，普段の教育実践のなかで気づいた疑問点を自分なりの視点でまとめてその解決／未解決に向かって行った改善努力の成果に対する反省的な考察や，いわゆる教室指導，受験指導で感じたちょっとした成功談や失敗談も，たとえ学理的な厳密性や普遍的妥当性を欠いていても，多くの会員，現場教育を含む教育に関心のある一般市民の関心を引き得るものであると考える．教育現場ならではのエピソードも話題となろう．

[1]多少の改訂さえすれば「採録」と判断可能な場合を指す．必要な改訂幅や査読報告時期により，機関誌掲載時期は判断される．

[2]著者は悪意がないのにそれで名誉が毀損されたと感ずる人の存在可能性は否定できないがそれは敢えて考えない．

投稿が掲載に間に合った論文の著者には研究会での発表の時間も 10 〜 30 分の範囲で割り当てられる．

最後に，ここが重要なところであるが，この非査読論考の経験の蓄積の上に，査読論文へと昇華する夢と野心を抱いていて欲しいと願っている．

3　特別寄稿，連載論考，企画記事

第 3 項に分類される論考，記事については TECUM 研究会と研究会誌の充実のために機関誌委員長の采配に委ねる．

4　すべての投稿の守るべき条件

投稿は，以下の形式的条件を守るものとする．

1. 原稿は，電子的にそのまま印刷できる形式（PDF をはじめ，ページ番号のない印刷用文書）．
2. ページ数は，
   (a) 第 1 項《査読つき論文，論考，随想》は 2 ページ以上 20 ページ以内
   (b) 第 2 項《非査読の実践報告，随想，意見》は 2 ページ以上 6 ページ 以内

   を原則とする．
3. 主張の明確化のために冒頭の概要，いわゆる abstract は必須．検索語はある方が望ましい．
4. 判型は A4 判とする。
   文字サイズは，タイトル：18 point，本文（著者名，abstract 含む）：11 point，章タイトル：16 point，$\cdots$ を目安とする．
   LaTeX であれば，文書クラスを

   ```
   \documentclass[11pt,a4j]{jarticle}
   ```

   に，タイトルは `\title{タイトル}` または `{\LARGE タイトル}` と，章タイトルは `\section{章タイトル}` として入力すれば，以上の目安とおおむね一致する．
   タイトルは中央または左寄せ，著者名は右寄せで，タイトルの直下に入れる．abstract はそれと分かる形で入れる（LaTeX の場合は quote 環境で入れることが望ましい）．
5. 他者の書籍／論考の，本文への引用は，局所的な引用にならないように十分に配慮する．典拠については次項の条件に則るだけでなく，該当ページ情報は本文につける．
6. 引用の典拠を示す参考文献は必須ではないが，つけるなら，多くの大学，学会で採用されている諸形式のいずれかに則り，著者，論文名，掲載誌，ページ数情報，発行年月日，出版社など，必要な諸事項を網羅する．URL も認められる．